

日光といえば、1999年に世界遺産登録された徳川家康公のご祭神を祀った社寺。

「日光東照宮」や「日光山輪王寺」は平成の大修理として修復作業が行われていて、中でも一番の見どころである東照宮「陽明門」が2017年3月10日に修理を終えお披露目になりました。この長い修理を終え、真っ白の美しい姿・彫刻が織りなす芸術等を十分に堪能できたと思われます。参加者は男性51名・女性92名の143名でした。

前日まで台風21号の進路が心配され、研修の実施が危ぶまれましたが幸いにも当日(10月24日)は天気恵まれ、NTT千葉前に集合し、バス3台を連ねて出発できました。途中湾岸市川PA・東北道羽生PAで休憩をはさみ松戸経由車と合流、一路日光へ進みました。昼食は「あさやレストハウス」で一同に会し、神橋を眺めながら湯葉料理を堪能しました。昼食後ガイドの案内で、先ず50年ぶりに大修理中の輪王寺本堂(三仏堂)に祀わ

れている3体の本尊(千手観音・阿弥陀如来・馬頭観音)を拝観し、次に今回のメインでもある色彩鮮やかに蘇った至宝「陽明門」を觀賞、続いて子供の将来を考えた母親が最高の教育の環境を考えて、教育上ふさわしくないものは、見たり聞かせたり真似させたりしないという、奥深いストーリーのある[見ざる聞かざる言わざる]の「三猿」、さらに左甚五郎作の「眠り猫」の彫刻を見学。この彫刻には猫が眠りにつくほど平和が末永く続くであろうという意味が込められていると言われている。

最後に薬師寺(本地寺)の天井に描かれた「鳴き龍」の真下で拍子木の音に反響して奏でる龍の鳴き声を聞き、予定時間の二時間があっという間に経過してしまいました。参加者はその素晴らしさに感銘を受けた様子が伺えました。

